

地震調査委員会における「茨城県沖の地震」の評価概要

(平成14年7月31日公表「三陸沖から房総沖にかけての地震活動の長期評価について」抜粋)

・ 茨城県沖で発生した主な地震

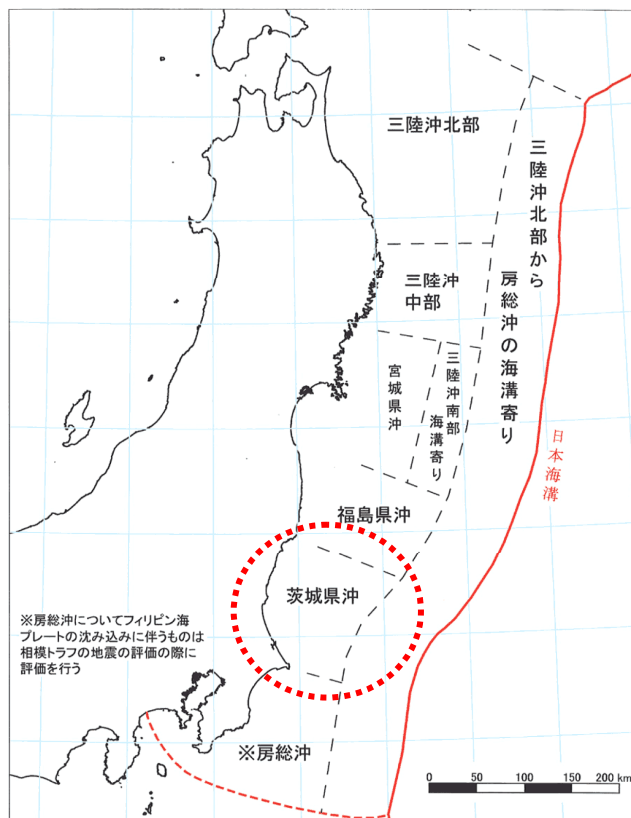
地震発生領域	地震発生日	M	Mt	地震の平均的発生頻度等
茨城県沖のプレート間地震	1943年4月11日	6.7	—	1940年以降約60年間に おいて発生は4回
	1961年1月16日	6.8	7.2	
	1965年9月18日	6.7	—	
	1982年7月23日	7.0	7.0	

・ 次の地震について

これまで死傷者をもたらした地震は知られていないが、1923年の関東地震の影響が少なくなった1940年以降では、約20年程度の間隔で地震活動の活発な時期が確認されている。茨城県沖のM6.7以上の地震について、ポアソン過程により発生確率を計算すると、今後30年以内で90%程度と推定される。

次の地震の規模は、過去に発生した地震の規模からM6.8程度と推定される。

評価対象領域図



次の茨城県沖のプレート間地震の発生確率等

項目	将来の地震発生確率等 ^注	備考
今後10年以内の発生確率 今後20年以内の発生確率 今後30年以内の発生確率	50%程度 70%程度 90%程度	1940年以降の過去62年間にM6.7以上の地震が4回発生しているため、平均発生間隔を15.5年(=62/4)とし、ポアソン過程から発生確率を算出した。
次の地震の規模	M6.8程度	過去に発生した地震のMを参考にして判断した。

注：評価時点がどの時点でもポアソン過程を用いているため確率は変化しない。